

共同主義の金融機關僅かな掛金でまるとなる資金湯本無盡をお進め致します

磐城自治新報

發行日 一月十五日 毎月二回
編輯印刷 箱崎義一
兼發行人 箱崎義一
發行所 磐城自治新報社
天王崎四番地
電話四〇〇番
紙代 一部十錢送料共
廣告料五號十二字詰一行金五
十錢按所指定金壹圓

町村會議員改選に付て

吾人は近時の我が世相に付先づ地方自治の完成を期す。たゞた深憂を禁じ得ないし立憲政治の基礎を確立す。眞面目な人士はひとしく此の事が急務である。今や全感をもつてあらう。爲政者國を通じて普選初頭に於けるは厚顔無恥奸猾で權謀術數る町村會議員の改選に對しを事とし、暴力團は各所に吾人は如何なる人をして理進行して治安をみだし、實想的町村會議員候補者に推選業家には背任横領の徒續出し度いか本社は人物豫選のし義理堅い風尙は一般にす意味に於て一般投稿を募集たれて猖獗狡計を算ぶの風し公平なる町村民の批判をが益々盛んになつて來た斯乞はんことす。

不景氣

大正九年財界に這入つた電裂は、ダン／＼大きくなる。斗り何時癒えべくもない今年こそと空頼み、益々不景氣は深刻味を見せて居る。實に憂慮すべき社會問題である。徒らなる表面的虚飾を捨て眞の素裸体になつて生きねばならぬ道を講ずべきである。

世相

吾人の期待を裏きつて我思想の悪化も勞働の争議も社會國家を如何にすべき下層階級の生活若も是れ社會をか痛切に考へざるを得ない。會世相の反映である。爲政開始することとなりたるが今や我國家社會は綱紀弛者の最も心を致すべきもの。廢し政界は暗黒實業界は混否今や中央政府に斗り委ねる、人心は險惡に陥つて居て安んじたり得ぬ、各自治團の策は如何にしたらよの秋である。

貴族院の名稱

デモクラシーが盛んに唱へられ、普選が實施せられ階級打破が叫ばるる今日、貴族院の名稱は妥當を欠くものである。衆議院を第一院貴族院を第二院とでも改稱するがよい殊更に貴族院なる稱すは餘りにも時代錯誤である。

社告

新妻 幸宣
右本社自治調査部長トシテ入社仕候間御後援被下度右社告ス

湯本商業組合

湯本町居住の一般商人は近防の財界の不況に鑑み損害防止を主たる目的とする團體の構我を期待し研究中なりしが去る七日之が創立總會を佐野屋に開催し會する者一〇〇名名稱を湯本商業組合と名づけ、組合長に町議石川徳壽氏を推し活動を開始することとなりたるが組合規約は三十六箇條に互り目下印刷中なりと、因に組合長石川氏の手腕識見に付ては世上既に定評あり其の活躍期して待つべし。

募集

各町村會議員理想的候補者の氏名通報を募集す

規定

- 一、官製ハガキ一枚二名記入
 - 一、町村名附記
 - 一、通報点数ヲ發表シ高者ノ人物評論ヲ掲載ス
- 今や第一回の普選が實施せられ遠からず改選の日あるに當り各自が持つて一票の行使如何は直に自治体の休戚に關す町村民の眞剣に考慮し非常なる覺悟を要するの重大事である奮つて御通報を乞ふ

磐城自治新報社

磐崎村藤原墓地陥没
新任所長の手により
圓満解決か？
磐崎村藤原三井炭礦より程少遅延したるも新任伊藤所長からの所在る建徳寺内長の誠意ある所見に基き近の墓地が昨年陥没したる事圓満なる解決を見ることに付村當局と炭礦側との間と觀測せらる。

御禮

前畧過般當町火災の際には早速御駆付下され非常なる御盡力を蒙り御蔭様を以て家屋の延焼を免かれ大事に及ばざりしは偏に皆々様の御賜ものご深く奉感謝候不取敢紙上を以て御禮申上候
三月一日
敬具

湯本町役場

昭和湯本郵便局増設電話
二月十五日開通

倉田 龜吉
笠井電七三番

田丸屋酒店
驛前電一〇五番

圓谷洋酒店
湯本驛前電七十番

丸て洋品店
表町電七四番

大和田肥料店
石畑電一〇六番

懸賞論文募集
農村振興策
一段十二字詰十行
五十枚以内
文字明瞭に書くこと
一等 金壹圓五拾錢
二等 金壹圓
三等 金五拾錢
本社懸賞係宛

丸屋足袋店
上町電七五番

白石藥舖
上町電一〇七番

平町藝妓屋組
湯本驛前電七十番

高崎氷問屋
櫻木町電一〇一番

湯本新校舍
柴田電一〇九番

要屋雜貨店
横町電一〇二番

比佐精米所
驛前電一〇三番

文化堂書店
上町電一一〇番

岡田茶店
上町電一一二番

藝妓屋本つた
表町電一〇四番

諸島問屋鳥靜
横町電一一一番

親切町學期需用品御の命は
美優印刷
甲子堂
村崎磐郡城石縣島福
番六五〇七臺仙替振

祝 勿 來 小 學 校 落 成

永年の希望達し
五ヶ年の歳月を費し
勿來小學校新築成る
全町民熱狂的喜び溢る

石城郡勿來町にては大正十四名學級尋常科二十四高等四年八月工費七萬七千圓科四校長は大内、鶴沼の兩を計上し小學校の移轉改築氏にして職員三十一名、今を決議し、爾來今日に至り後益々全町教育の隆盛は目五ヶ年の月日る要し理想覺しいものであらう。

特志家の寄附
事業に心を致し今回御大典紀念として全町小學校に奉安庫建設の資金として金壹千圓の寄附をした



勿來町
町會議員候補の
顔振れ

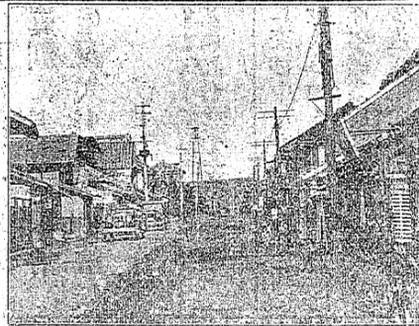
全町に於ける町會議員改選に就ては今より噂どりくなるも有力者として町民に論議されて居るのは左の諸君である、期日が迫らば熾烈なる競走起るべく消長は直に國家の消長に關今より策議を論じ置く必要す、町長大平陸四郎氏、校がある。

に適し其他諸般の設備亦完成し當地方に於て模範となす所恥ぢない、抑々教育の長大内勇氏其他有方者父兄皆教育に熱誠共に協力一致遂に本日の盛典を擧ぐるに及んだ事は實に歡ばしい限である、請負は常磐工業株式會社及全町金成大五郎氏にして何れも亦誠心之が完成に勉められた、全町に於ける小學校児童數千三百廿

町長大平陸四郎氏



- | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|--------|------|------|------|-------|-----|-------|------|------|------|
| 大平竹男 | 赤津修一 | 赤津庄兵衛 | 平山篤 | 青天目信次郎 | 小野富次 | 小松清造 | 鈴木一藏 | 小松彌次郎 | 安島久 | 小野七三郎 | 渡邊梅吉 | 榎田龜吉 | 森重次郎 |
| 小松作次郎 | 小松春次 | 皆川喜内 | 北郷廣作 | | | | | | | | | | |



校長大内勇氏

勿來郵便局長
赤津一
勿來消防組頭
赤津庄兵衛
勿來第二校校長
鶴浦盛喜
勿來町々會議員
渡邊梅吉郎
小野七三郎
兒玉富太郎
秋元一郎
青天目信二郎
平山篤
赤津庄兵衛
横山太一
小松章
森重四郎
鈴木倉之助
下山田甚次兵衛
榎村僊吉
榎田平工門
荒川又助
赤津一

區長
大平武男
勿來統計調査員
赤津榮助
大日本炭礦勿來坑
指定商
佐藤商店
小坂商店
鷺商店
羽山商店
若松商店
鈴木商店
草野商店

大日本炭礦勿來坑
井花
勿來酒造
大平
町造
店
番七十五電

都々逸
赤津酒造店
電話三番

丸正商店
電三十五番 赤津壽平

田口屋吳服店
電四番 田口佐平

宮下牛乳舎
赤津吉太郎
三升屋
燈提裝造

福田屋雜貨店
國部藤吉
電三十一番

湯本運送株式會社
人事紹介業
米川實
人事紹介業
先崎集惠

湯本運送株式會社 社長 岡義守 電話三十八番

人事紹介業 米川實

湯本町

人事紹介業 先崎集

湯本町

湯本町

久田狂水兄へ與つて 川柳を論ず

東京 阪井久良岐

かう云ふ風に開き直つて論じ出すと大變六ヶ敷なりそうだから例の漫談式に種々申上げやうと思ひ外今日川柳は頗る混沌として居ますてん／＼に云ひ度い事を力説して他の主張に對して考慮を加へる事をしません。其餘りに心の餘裕の無さを氣の毒と思ふ斗で有外。これらは經濟問題、思想問題に川柳が觸れて居るため、常に人の心に安定がなく、絶えずグラ／＼して居るから有外。一度そふ云ふ時代の因縁から解放せられて古川柳の眞の妙境に達すると、ソノに縦横無碍の別天地に逍遙し生を享樂し、心のソ安住地点を確立する事が出来るので有外。

革新派の一部は古川柳を罵り傳統を罵るのに古川柳の糟粕を嘗める杯と云つてお外が、吾人から見ると噴飯の至りで有外。自分斗りエラ者だと言ふ自惚が十分で、他人のエラサを包容する餘裕がなく反省もなく修養もない事が能く認められ外何が古川柳の糟粕なのかお前

一時唱道しましたが一度退いて、オレは川柳家であり、川柳を社界に紹介した人間で有つて、只個人人の詩丈理解して眞の川柳の何物たるを確りと握る事が出来ずに死んで海に天下後代に對して恥かしい事だと思ひましたので、サマ／＼の難行苦行を積み、一切の小理屈を排し一意、實曆天明の大江戸の姿、市民の心意氣等に付いて深く研究した結果川柳の全体を理解し得たので有外、しかし現代の理屈でのみ物を解決して唯物史觀的に社會を平面的にのみ解して一向心の餘裕のないのは全然反對の川柳の世界であつて見ると、コノ所十年や廿年ではマダ／＼本當の川柳は一般理解を有つ事は難いかと思はれま

又ある者は俳諧に還元するのだと叫んでゐますがソレナラば屑く俳句に降參するなり、新興俳諧とでも標榜して川柳の名を撤回したら宜しいのであります。いづれも川柳の名に執着し傳統川柳の勢力を借用しながら、川柳でもない個人の詩を川柳だと言ふ矛盾から生じる滑稽を自分で知らないの有外。

私二十七八年前に一度コウ云ふ迷に立つて新十七字と云ふ主觀の句を

状態の上に立つて見ると川柳がどう取扱はれてゐるか能く伺ひ知られます。同じ系統の俳句短歌界の方面に立つて川柳を見るときに幼稚であり蕪雜混亂してゐるかど理解されるのであります。此大東京にしても通俗的の川柳界を一步出ますと書道にしろ美術にしろ専門的に成ります。江戸研究にしろ學問の方で専門的に成つてゐます、只今私のお付合をしてゐる書道方面文人書方面(漢詩)では今泉雄作翁とか柳田泰麓翁とか中村不折先生(新傾向俳句交渉ガアリマス)とか荒木十畝先生とか云ふ方々で有りまして直に唐床元清の書畫道の研究に没頭しなければなりません、かういふ方面から見ると川柳は失禮ですが、テンデ問題になつて居ません、分けて川柳家として満足に書ける方も少ないやうで有ます、私なども駈出しの小僧で可なり習字もしますが一向に進歩も見ません、詩だの藝術だの云ふ前に一つ満足な書位がけるやうに努力したいもので、活字斗りで威張るのが人間の本能ではないと思ふので有ります。

道通信雜誌は一万部も刊行目下二万部刊行の運動で有ます、失禮ですが川柳の雜誌で一万部刊行する雜誌は恐らくあるまいと思ひ外、如此社會は複雑であり、廣い物であります、自分斗の天下だと思つたら恐らく滑稽な物に陥ることだと思ひふのであります。又俳句界にしてもホト、ギノの主筆高濱虚子先生は東京丸ビルに事務所を構え鎌倉から通はれますが月収三千圓であるこの事であり、川柳は社會の實力でなければならぬのに、川柳家として月収何程を得られてゐませうや、露骨ではありませんが、久良岐はアト八年間は借金のため一文なしで活動せねばならぬ立場に立つてゐます。川柳は決してカラ氣焔では有りません、活字丈の方ではありませんが、生を享樂し人生を味ひ樂し趣味藝術を通じて相互に愉快に都市の情調に浸る喜びであります、然るに東京の柳川家として銀座なり帝展なり音楽會なり歌舞伎帝劇澤正劇なりにドコに川柳家を標榜し得て相當の勢力を示す團體があらませうか、去秋某君が東京市内で川柳展を催されましたが一向

に反響も何も與えられなかつたやうです、マシて其作品に狂句があつたり月並發句が有つたりして識者の笑を買つた丈に留つてゐます、コレでは甚だ心細い次第ではありませんが、失禮ですが幼稚な程度の人の中では何をやつてもエラク思はれます、俳句を作つて新しい川柳だといつて通用しませうか、本場の俳句界で通用しますか、どうかをお考へなさらなければ成りません。書にし繪にしる専門家及鑑賞家を敬服させる何物かを有つてゐねばなりません、十分に修養を積まねばなりませんのによ、加減の程度で夜郎自大で納まること云ふ事は川柳家の爲めに嘆かほしい事だと思ふのであります。句斗作つて、川柳を作るべき素地を養ふ事を知らないので目下川柳界の欠点であります、抽象的概念的な事を言つてエラガルの益人生としても幼稚の甚しい者で此實社會の趣味に交渉をもち假象上の愉快を感じ得るやうにならねば本當に川柳が分つたのではありませぬ。過日も社中富士野鞍馬と書道作振會、清満會頭八

主觀の概念的の子供らしいエラガリに墮してはるけません、先づ習字をし音楽を知り、和歌、俳句何でも宜しいから自己生活の趣味を豊富にする事を怠らず和合協同の詩の樂園を築き上げ東洋と西洋文化との調和を圖る大抱負がなければいけません、ヤレ何派だの革新だの何の因はれを心に持つて大研究の餘裕を持たぬやうな川柳家は一時的の出現で永久に亡び失はれる者であります。又追々申上げませう、但し現代には智育と体育が欠けてゐる片輪の教育時代であります、こゝに社會の紛糾闘争が生じ、人に讓る敬意禮節を欠いてゐる時代であります、コノセ／＼斗して少しもソノビリとした心を欠いてゐる時代であります、古人は極めてソノキであつて感情が發達して理性は幼稚でありました、情育と德育が盛んで、智育の欠けてゐる時代であります。この理性と感情とをドウ整理して行くか、將來川柳家の双肩にかゝる大問題なのであります。附言、これは小問題です「滿洲」で質疑された借りた櫛……(以下次頁)……

フケ番付へ少し落ち
の句であります、私
から見ると
借り櫛のフケ番付へ少し
落ち

と言はねば句になりませ
ん、但し此句は川柳の穿
があつて、可笑味も、輕
味もない、細微な寫生句
であります、フケでは小
汚ないといふ感じを第三
者に與える迄であります
原句ですと第二句フケ番
付といふ固有名詞の様に
とれます、原句のまゝ、と
すれば「番付へフケ」とい
ふべきでせう、初句へ借
りた櫛と置くのは俳句の
措辞法で「借櫛や」と同
一になります、この位の
句法すら通曉しないやう
では傳統川柳としても誤
謬だらけであります、コ
ソナ方法の研究すら怠つ
てゐるは古川柳のワカラ
ヌのも無理はありません

如此川柳は社會情操教
育の一端で頗る問題は大
きな物であると同時に、
十七字の句形についても
十分研究が積んで居なけ
ばならぬ

ればなりません、第一其
作句が無法でありながら
第三者を動かす事は出来
ません、一面個性の詩と
いふ事が半分り、一面
傳統の句法の研究すら半
可な現狀に吾人は不満を
唱へる者であります、ソ
レを一々訂正するご自己
の小感情に訴へて不平を
ボしたり反抗するやうな
程度では眞の川柳は當分
頭を上げる事出来ませ
ん、第一に作句家の態度
人生觀社會觀を正しくし
て十分勉強を積まねば詩
としても川柳としても第
三者を敬服させる事は出
来ません

今や川柳は大なる勢を以て
社會へ向つて進出して居
ます、其熱は和歌や俳句を凌
ぐものがあります、然し未
だ黎明期にあるもの、尙發
展を今後俟つものが多い
茲に本邦柳界に於ける第一
人者、阪井久良岐翁の柳論
を紹介す、斯界に心ある者
は勿論、一般世人も亦一讀
すべきの言である。

附記

(狂水記)

祝本社の發展

◆良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント會社特約店

和洋銅鐵
金物問屋
釜屋商店

確實敏捷は釜屋の生命なり
磐城平町 電話九番 一三九番

和洋菓子
製造卸商
松屋菓子店
勿來驛前

料理店
松の屋
別館新設ス

東山旅館
電一八番

勿來町
遠藤長太郎

鈴木子之吉

小松春次
電三十八番

加茂市太郎

後藤文一
電四十二番

金成大五郎
電二十三番

榎田亀吉

松浦啓敢

舟生整骨院

大日本炭坑勿來坑
酒類販賣
佐藤飯場
金成岩太

醬油味噌糖節
醸造元
山崎合名會社
磐城平町 營業部
工場 電話一〇番
電話二七番

酒類罐詰食料品
常磐線湯本驛前

正丸正運送店
親切敏捷は正の力ギ

御代一番 御代武兵衛
代御の鶴 佐原酒造店
鹿島村

醸造元
佐原酒造店

磐城水産工業株式會社
社長 小野普平
支店長 齊藤兵衛
二本松電氣株式會社
小名濱支店 電話二十七

三井炭礦警務係
三宅富助

鈴木市郎
各種最新型靴

栗原森之助
電十六番

吉田恭平
荒物雜貨 砂糖各種
電五十二番

職業紹介業
山本健次郎

職業紹介業
石川八郎

西丸豊造
各種新聞取次
電六十七番

木田熊太郎
質、材木商
小名濱町

佐藤清三郎
三井炭礦警務係

醬油味噌糖節業
岡山重吉
小名濱町電十三番

新妻安吉
學務委員
玉川村

野崎喜代松
農會長
玉川村

高木甚惣
渡邊村々長
全校長

近藤勝義
全首席

伊東左一
全村會議員

永山定秀
全

江尻善水
全

木村宰博
全

全收入役
高木倉松
全前組頭

久保木勇次
全村會議員

根本儀一
全

高木馬次郎
全

小松崎洗張店
平町電七七〇番

丸はん本店
平町電三五九番

新米旅館
小名濱町電八番

百澤商店
平町電話二二番

伊藤孫搥
三井炭礦々業所長

藤原郵便局長
小湊徳次
三井炭礦警務係
蛭田辰造
西村藥店
平町電話三番

共同主義の金融機關僅かな掛金でまよとまる資金湯本無盡をお進め致します